

に市よみ しプン 障がい者就労農園 東京の支援企業を誘致

みよし市南部の明知町に今年3月、障がい者の就労の場「わーくはびねす農園愛知みよしファーム」が開園し、約7700坪、ミニールハウス3棟が新設された。これは農園に特化して

障がい者の就労雇用支援を行っている「物エスプールプラス」(東京)をみよし市が誘致し実現した。同社はこれまで千葉県を中心に国内12カ所に農園を持ち、知的、精神障がい者を中心

に1千人以上の就労の場を提供してきた。みよしファームでは最終的に60人が働く予定だ。
この農園は、障がい者の雇用を旨とする民間企業へ貸し出すもの。また、障がい者を企業に紹介して直接雇用契約につなげ、経済的に自立した障がい者を増やすのも狙いだ。ハウス内は障がい者が働きやすいよう土を使わない独自の栽培方法を取り入れている。
みよしファームを借りた企業は自動車、医療、食品などの7社で、現在、障がい者の農園研修や企業との契約が進められている。今月中には市内在住者5人を各社8人が就労予定だ。
エスプールプラス社の特徴は、農業技術管理者

企業の障がい者雇用を後押し

と障がい者専門定着支援アドバイザーが知り、農業・福祉両面のサポート体制を持つことだ。特に障がい者雇用の課題である就労後の職場環境づくりの支援に力を入れ、農園を借りた企業の担当者が定期的に農園訪問して障がい者とコミュニケーションを図り、やりがいを持って働き続けられる仕組みをつくらせている。栽培した野菜は各社が福利厚生で社員に配布・販売したり、子ども食堂へ寄付したりするところが多い。
みよし市は昨年8月、豊明市にできた同社の農園を視察。農地情報を提供して今年7月に協定締結に至った。市内の障がい者を優先的に雇用してもらいたいと考えた。市の担当者は「市内には障がい者の就労先が少ない。選抜版を広げたいと考えて今回の誘致を行った」と話す。21日の開園式には小野田市長や農園利用企業、就労予定者なども参列予定だ。
【地域記者・東神子】